

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第53週 (12/28-1/3) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		53週	52週	51週	50週
	小児科	16	18	18	18
	眼科	5	4	5	5
	インフルエンザ*	26	27	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	12/28-1/3	12/21-12/27	12/14-12/20	12/7-12/13	12/21-12/27
			53週	52週	51週	50週	52週
小児科	RSウイルス感染症		4	16	19	19	105
	咽頭結膜熱		2	4	11	5	99
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		12	42	53	45	391
	感染性胃腸炎		66	217	233	225	1,364
	水痘		6	13	26	17	146
	手足口病		0	0	2	9	8
	伝染性紅斑		3	16	14	9	100
	突発性発しん		8	8	9	8	40
	百日咳		0	0	1	0	5
	ヘルパンギーナ		0	1	0	1	4
	流行性耳下腺炎	○	11	11	17	15	142
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	4	2	3	152
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	1	0	0
	流行性角結膜炎		0	2	4	2	32
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	3
	無菌性髄膜炎		0	1	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		1	0	2	0	6
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		1	0	1	0	1
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(0件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-

・報告はなかった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第53週のコメント

<流行性耳下腺炎>前週から増加し0.69となった。若葉区で流行発生注意報基準値を上回った。

■ トピック ■

<流行性耳下腺炎>

全国レベルの第52週は、過去8年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、佐賀県、石川県、長崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の2015年第53週は前週から増加し0.69となりました。区別の発生状況は、若葉区(3.5/定点)で流行発生注意報基準値(3.0/定点)を上回り最多で、同区の3歳及び5歳で多く発生報告がありました。2015年第1週から第53週までの累積報告数(n=385)によると、性別では男性が53.5%(206名)、女性が46.5%(179名)で、年齢階級別では4歳(16.6%:64名)、5歳(15.8%:61名)、6歳(12.7%:49名)の順に多くなっています。

2015年は過去10年の同時期と比べ第33週頃から増加し始めました。また、年齢階級別の報告数を記録がある過去9年と比べると、8歳~10歳代前半が多い傾向にありました。区別の発生状況は、若葉区で度々流行発生注意報基準値を上回り、比較的多い状況が見受けられました。

